

「通勤バードウォッチング(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

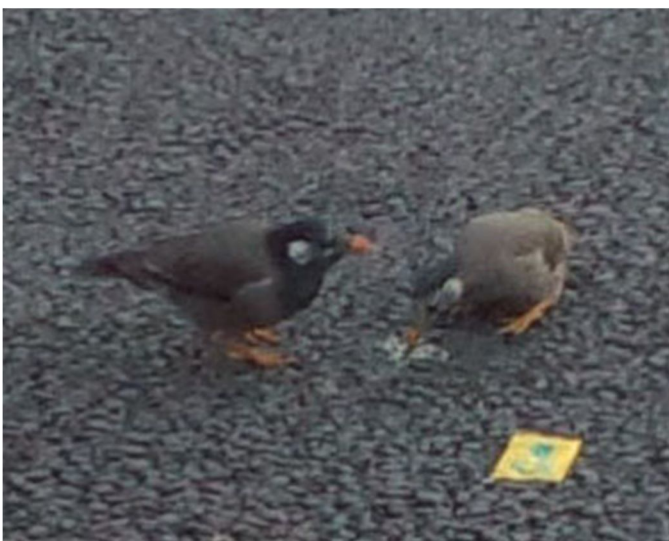
5年生の鳥が好きな女兒から、絵だより(絵日記)を通じて質問が届いた。

「夕方、家の近くの電線に、灰色っぽい鳥が何匹もとまっていた。スズメよりは大きいですが、鳩よりは小さいです。顔は黒っぽくて、ほっぺたは白かった。くちばしと足はオレンジ色でした。みんな仲が良さそうでした。何の鳥ですか？」

これは「ムクドリ」の特徴である。ムクドリは木の実や虫を好み、都会地にも多い。私も通勤中に、ほとんど毎朝のように見かける。



「門前仲町のムクドリ」2羽仲良く寄り添っていた。



地面に落ちたビスケットのかけらのようなものを、ついばんでいた。ムクドリは、地面のいる昆虫も好んで食べる性質がある。



ムクドリの多くは、都会地に留鳥として生活している。騒音や人の気配にも慣れているようで、私がカメラ(携帯)を持って、相当に近づいても、涼しい顔をしている。この写真を見ても、前述の女兒の観察通りの姿で、かなり優れた観察力を持っているとわかる。

欧州に住む「ホシムクドリ」という種類は、越冬の為に大群で南に移動するという。ローマのような大都会では、周囲よりも気温が高く快適な為、百万羽もの大群になって押し寄せる。一日に10トンもの糞が積もり、屋根や自動車に大被害を及ぼしているらしい。糞害も大きい、害虫も0になっているかも知れない。

また、これだけの大群になると、夕方に罅(ねぐら)に戻る時に、いくつもの群れが空に不思議な模様を創り出すという。刻々と変化するこの百万羽の造形を、私は一度観察してみたい。できればローマで見たい。これが東京に出現したら、一大事である。



「ホシムクドリの群飛」ローマ上空
NHK「プラネットアース」より